



[シュン!]

瞬

やまなしの

vol. 7

in 市川三郷町

美しい桑の郷を蘇らせ
世界に発信していきたい

桑の葉茶製造 桑郷
ハン・ソンミンさん



健康茶としても人気のある桑の葉茶。
2013年、フィリピンバンバング国立農業大学と提携。翌年からは現地での桑栽培と茶葉の製造を開始。中国進出の計画も進行するなど、その視野は世界へと広がっている



二人三脚で桑の葉茶の魅力をPRするハンさん夫妻。「自分のような激しい男を信じ、いつも笑顔でサポートしてくれる妻。彼女がいなかったら、今の自分はありません」と感謝を忘れない



全てが手探りの中で 懸命に奔走した日々

葉が大きく肉厚で病害虫にも強い「二瀬桑」発祥の地として知られる市川三郷町。かつては青々とした桑畑が町中にも広がっていましたが、養蚕業の衰退とともにその美しい風景は姿を消し、耕作放棄地が目立ち始めました。「美しい桑の郷を蘇らせたい」との熱い思いを胸に、桑畑の復興に取り組んでいるのが、韓国出身のハン・ソンミンさんです。

2004年に来日し、この地域の美しい自然に魅せられたハンさん。桑の葉茶の開発と製造を行っていた義父の事業を受け継ぐ形で、2008年、妻の三貴さんと共に株式会社 桑郷を設立しました。「最初は販路も無く、どうすればいいのかと2人で頭を抱える毎日でした。でも、私はじつとしてるのが苦手。とにかくやるんだ」と。祖国との文化の違いに戸惑い、見えない壁を感じることもありましたが、三貴さん手書きのチラシを県内中に配り回るなど、地道な活動を続けるうち、応援してくれる人が少しずつ増え、やがて地域に受け入れられるようになっていきました。

そんな中、一番の理解者であり協力者でもあった桑の生産者が急逝。ハンさんは恩人の畑の管理を任せてほしいと頼みま

した。「農業は初めてでしたが、体力だけは自信があった。地域の方に教えてもらいながら、桑の栽培から収穫まで無事にこなすことができました」。懸命に働く姿が信頼を呼び、管理を任される畑が増えていったとハンさん。2013年には、地域の方をはじめ多くの仲間の支援の下、荒廃していた耕作放棄地に2万本の桑を植えるプロジェクトを完遂。今では、6畝の畑で4万6千本を栽培し、会社は従業員を雇用できるまでに成長しました。

夢に向かって 挑戦はまだまだ続く

「私はこの町が、誰もが行ってみたいような場所に、そして来た人には、行って良かった、元気をもらい生きていく活力が湧いてきた、と言われる場所になればと願っています。そのためにも、もっと桑を植えて、ここを『桑の郷』にしたいんです。目標は、2018年までに10万本植えること。そして、私自身が一生懸命に取り組んでいる姿を通して、日本はもちろん、世界中に、市川三郷町は元気ですよ、こんなにも熱いんですよと発信していきたいとも考えています」。まだまだ夢の途中と、大きな体で高らかに笑うハンさん。その声は、決意と希望に満ちていました。